

授業科目名	地球社会とグローバルガバナンス	単位数	2
担当教員名	三村 悟	担当形態	単独
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>世界が直面する様々な問題の解決に向けた、各国政府や国際機関、企業、市民社会など多様な主体による取り組みや、それら主体間の連携について考えることで、学位授与方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につける」ことに寄与する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>今日の国際社会では、紛争やテロ、難民や移民の問題、瞬時にして世界中に広がる経済問題、感染症や気候変動など、地球規模で影響を及ぼす様々な危機や対立が顕著となり、従来の国際秩序が変容している。グローバル化する社会では、世界政府のような中央集権的な権威は存在せず、一方で国家・非国家を問わない多様な主体が国境を越えた統治（ガバナンス）に貢献している。本科目では国境を越える地球全体の問題（地球規模課題）への対応を中心に、グローバル・ガバナンスについて学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>テキストをもとに、紛争、人権、環境、水問題などの国境を越える課題に対応するための国際枠組と、国家、非国家の主体による取り組み、および近現代史における日本と国際社会について学ぶ。スクーリングにおいてこれら課題の国際交渉や多様な主体による行動、日本と国際社会の関わりについて具体例をもと学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：国際連合と安全保障</p> <p>第2回：新興国の台頭</p> <p>第3回：非国家アクター（NGO）の働き</p> <p>第4回：宗教を背景としたガバナンス（イスラム世界）</p> <p>第5回：近現代史における日本と国際社会（1）</p> <p>第6回：国際交渉での地域機構のリーダーシップ</p> <p>第7回：地域機構によるグローバル規範の実践</p> <p>第8回：紛争防止での国際機関の役割と限界</p> <p>第9回：近現代史における日本と国際社会（2）</p> <p>第10回：HIV、感染症対策</p> <p>第11回：サイバー・セキュリティ</p> <p>第12回：テロ対策</p> <p>第13回：仙台防災枠組と自然災害への対応</p> <p>第14回：気候変動枠組条約</p> <p>第15回：持続可能な開発目標（SDGs）と多様な主体の参加</p>			

定期試験

スクーリングでの学修内容

テキストの内容全般に関わる説明に加え、日本と国際社会の関係性の変遷、および環境・気候変動や防災などの問題に対応するための国際枠組と、それに基づく様々な主体の取組について紹介する。また、持続可能な開発目標（SDGs）について詳述する。

（主に、6，9，13～15回の内容を含む。）

テキスト

グローバル・ガバナンス学会編『グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域』法律文化社

2018年

加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』新潮文庫 2016年

参考書・参考資料等

日能研教務部編『国連 世界の未来を変えるための 17 の目標 SDGs 2030年までのゴール』日能研
2017年

Web サイト

気候変動枠組条約パリ協定に関する解説（地球環境戦略研究機関）

市民のための仙台防災枠組（防災・減災日本 CSO ネットワーク）

国連広報センターWeb サイト

「2030 アジェンダ」

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。